

# 猿新聞

編集・発行  
山村 準  
tel:0595-63-1725  
Email  
jyun.y@asint.jp

## 総理大臣夫人 安倍 昭恵さんイン名張 野生獣追い払い犬飼主と懇談

### M・D倶楽部総会

去る5月20日、平成26年度MD倶楽部総会が名張防災センター会議室において、開催。総会は、来賓挨拶に始まり、25年度活動報告、決算報告。本年の取り組み方、抱負などを議論。質疑応答で閉会。  
総会後の記念講演には、講師の山口 薫さんと大学時代の友人で、環境問題に造詣が深い総理大臣夫人の安倍 昭恵さんが出席され、講演に熱心に耳を傾けておられました。今回の講演会は、昭恵スマイルに惹かれたか一般聴講者が多数押しかけ会場は満席。昭恵さん効果もさることながら、地域住民の獣害に対する関心の高まりも痛感したと思います。講演会終了後、犬達の模範演技などを披露し、安倍 昭恵さんを交え懇談会を開催。

講演を熱心に聴く  
安倍 昭恵さん



### 『モンキードッグ活動による野生サル追い払いの成果と課題』

東京大学大学院新領域創成科学研究科環境学研究室  
山口 薫

#### 《講演概要》

全国都道府県数25のアンケートによると「モンキードッグ倶楽部」は全国唯一の組織であることがわかった。また、県境を跨いで活躍しているモンキードッグも全国で比類がない。全国的にモンキードッグの効果が認められているが飼主、犬の高齢化がモンキードッグの存続を左右し大きな課題である。

また、地域の受け入れ体制や協力が、モンキードッグ存続の鍵になってくる。今後は、広報活動に積極的に取り組み情報の共有、地域との交流を図っていくことが大切である。自治体側も、広報やマスコミを通じてモンキードッグ活動をしやすい環境に整えることも重要である。『国の偉大さ、道徳的発展は、その国における動物の扱い方でわかる』とマハトマ・ガンディーの名言を引用して強調していたのが印象的であった。講演には、全国25都道府県を行脚した体験談もまじり、説得力がある内容であった。

第4回 モンキードッグ倶楽部総会

講演風景  
講師 山口 薫さん



『野生動物と共存の  
模索を』と話す  
安倍 昭恵さん

### 懇談会

「実際に日々活動している皆さんと、一緒にいろいろとお話をしたい。」との安倍 昭恵さんの申し出で、MD倶楽部では懇談の場を設定。  
昭恵さんは、「MDの効果で人と野生動物の共存・共生を図ることが理想」と強調されていました。限られた僅かな時間でしたが、親しく打ち解けて意思疎通をはかる、貴重な体験をすることが出来ました。

## 畑をサルから守る

サル被害は狭小な自家菜園が多く、耕作者の殆どが高齢者です。経済的な被害は無論ありませんが、それより精神的なダメージが心配されています。山間地では、これが引き金になり耕作放棄地の拡大が止まりません。自然界の

サルは木の実や雑草を好んで食べ、活動時間のほとんどをエサ探しに費やしていますが、農作物に依存し里地を縄張りとしているサルは、栄養価の高い農作物を短時間で大量に食べられるようになり、一旦、この味を占めると自然界（奥山）にはなかなか帰れません。そこで、みんなで知恵をしぼって思いつく限りの作戦を練り、集落ぐるみで奥山に追い上げる作戦を執ると同時に、集落全域でサルを誘引するものがないか確認し、集落全域をサルにとつて魅力のない場所に再構築しなければなりません。

長期間にわたり餌付け材料となつている果樹（特に柿）は、どの集落でも沢山残っています。剪枝や剪定が適切でないため、樹高が高く収穫が困難でいつまでも果実が樹上に残り、サルのフールツシヨップ。  
また、害虫管理が適切でないため、収穫前の早期から糖度の高い多くの果実が落下し、格好の餌付け材料となつています。収穫しない柿の木などは思い切って伐採するか、低木仕立てで獣害管理をしやすくしましょう。

つる性の野菜の力ボチヤ、スイカ、ウリ類栽培には十分に注意して、柵内で着果させるように、「つる」を誘引して下さい。  
柵外着果は餌付けです。トマト、キュウリの果菜類は整枝、誘引方法が不十分だと、果実の引きちぎりでずむ被害が、根っこから引きちぎられ、回復不可能な被害になります。トマト、キュウリの栽培にはシツカリとした「テ」（支柱）をたてましょう。残さをほ場に放置する家庭菜園特有の収穫法を改めましょう。放置残さは、サルや他の害獣を呼び寄せます。収穫後の稲株の秋起しをして餌となる「ひこばえ」発生させないなど、冬場のエサを減らす環境改善も大事です。

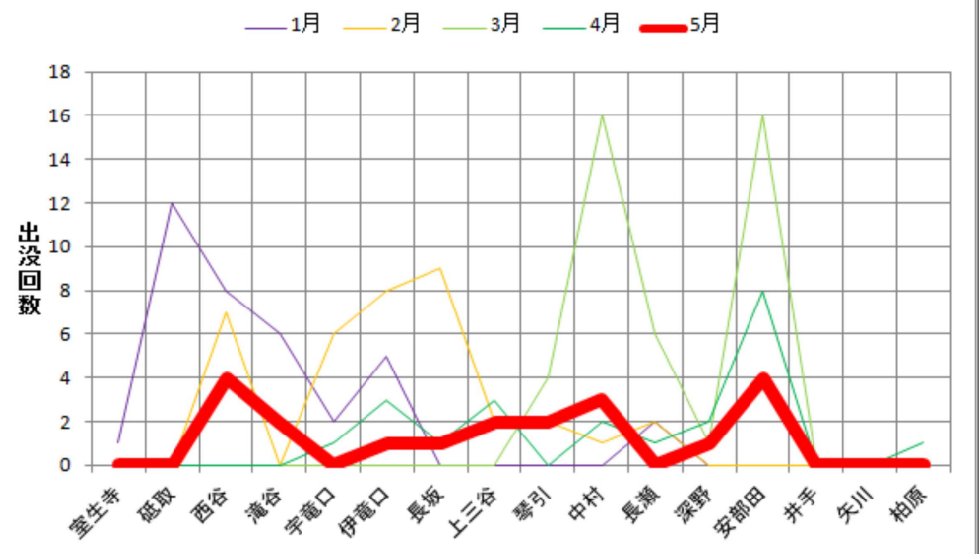
栽培にはシツカリとした「テ」（支柱）をたてましょう。残さをほ場に放置する家庭菜園特有の収穫法を改めましょう。放置残さは、サルや他の害獣を呼び寄せます。収穫後の稲株の秋起しをして餌となる「ひこばえ」発生させないなど、冬場のエサを減らす環境改善も大事です。

### サルの出没状況 名張A・B群

5月のサルの動向  
A群は、前半が青蓮寺ダム後半が、比奈知ダム。とはっきり分かれ、それぞれの湖畔で豊富な自然食を採食しながら過ごしています。  
そのため、今月は農作物等の被害は、聞いていません。  
また、5月は出産シーズンで、出産直後の個体を複数確認しています。  
B群は、行動域を広く巡回しています。食餌資源の関係か、時々畑作物やかんきつ類等の被害が発生しています。

奈垣、神屋地区付近で離れサルのオス集団と思われる3頭が、頻りに人家付近に出没し、農作物に被害が出ています。保育所の屋内へ侵入してきたとの報告もあります。

名張B群出没状況



名張A群出没状況

